

令和6年度（2024年度）事業報告書



インカレ・トラック

（2024年8月・千葉県千葉市 TIPSTAR DOME CHIBA）



インカレ・ロード

（2024年9月・群馬サイクルスポーツセンター）



全日本学生選手権トラック

（2024年7月・千葉県千葉市 TIPSTAR DOME CHIBA）



全日本学生ロードレースカップシリーズ 白馬ラウンド

（2024年8月・長野県白馬村）



RCS 最終戦・神宮外苑クリテリウム（2025年2月）



「JICF 国際トラックカップ&学生オムニアム選手権



日本学生自転車競技連盟
Japan Intercollegiate Cycling Federation

1 はじめに

2024年度は、近年重点的に実施している“安全な競技を実現する”ための「講習会」「実技レクチャー」など『セイフティライドに向けた取り組み』を継続的に行いながら事業を実施してきました。2022年度・2023年度の悲しい事故を重く受け止め、安全に重点を置き、参加者、指導者、主催者に意識の向上が深まり、少しずつではありますが学生連盟として前進をしてきたと考えております。

安全性の向上にむけ、様々なリスクを下げる諸対策に、単純な手法や明確なゴールがあるものではありませんが、引き続きセイフティライドに向けたマインドとスキルを身に付けることは、不断の取り組みとして常に関係者全員が肝に銘じる必要があり、今後も引き続きより「リスクの低い事業遂行」の為に継続的に取り組まなければならないと考えております。

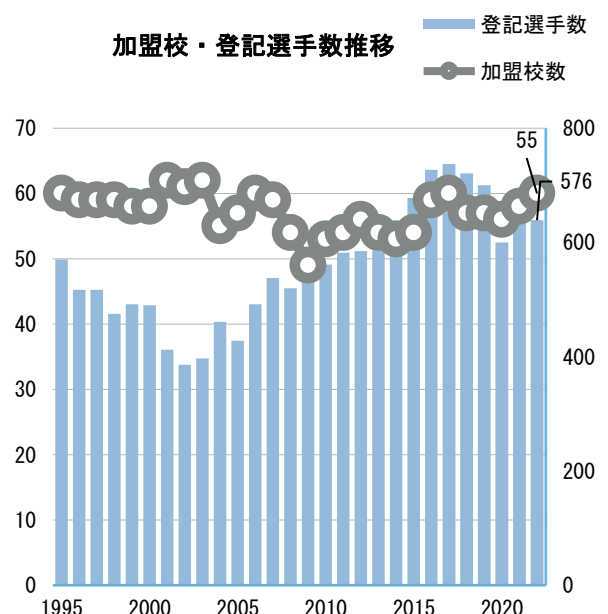
2 加盟校数・登録選手数等の推移

2024年度は、加盟校は50校で前年より5校の減少、登録選手数も528名で前年の576名に比べ48名の減少でした。この1～2年の減少は「セイフティライド講習の義務付け」や「スキルアップを求めたエントリー条件」など、参加基準のハードルが上がった事、各校で選手登録の慎重度への変化、或いは少子化による部員数の減少、など、様々な要素が推測されます。長年にわたり加盟校100校、登録選手数1000名を目標としてきましたが、近年の事業計画で示されている通り、安全に対する取り組み体勢が「一定程度充実したチームにより構成される事」安全重視の組織へと「質的転換を図る流れ」が影響している事が推定されます。

また、学連所属の審判員登録は122名（前年度73名）、チームアテンダント登録は12名（前年度15名）で、審判員数は増加、チームアテンダント数は前年度比横ばいとなり、今後も安定した競技運営に向けてこれら登録者の増加が必要と考えられます。

（2024年度のJCF登録競技者7,097名、JCF審判員登録2,664人、チームアテンダント1,832人）

西暦	平成/	加盟	男子	女子	選手計	評議	賛助	審判	アテ
1995	7	60			570	264		140	
1996	8	59			517	270		114	
1997	9	59	479	38	517	261			
1998	10	59	441	34	475	270			
1999	11	58	461	31	492	278	83	135	
2000	12	58	449	31	490		81	180	
2001	13	62			412	317	85	176	
2002	14	61			386	323	79	151	
2003	15	62			397	323	110	148	
2004	16	55	429	32	461	323	99	133	
2005	17	57	395	33	428	323	76	144	
2006	18	60	469	23	492	349	89	161	
2007	19	59	505	33	538	351	88	154	
2008	20	54	498	22	520	326	83	128	
2009	21	49	521	25	546	328	77	125	
2010	22	53	531	30	561	355	59	121	
2011	23	54	552	30	582	354	63	92	
2012	24	56	552	33	585	354	61	98	
2013	25	54	555	31	586	357	66	90	
2014	26	53	559	36	595	352	60	100	
2015	27	54	643	35	678	352	82	123	
2016	28	59	692	36	727	353	68	118	
2017	29	60	698	39	737	353	68	110	43
2018	30	57	679	42	721	377	79	80	13
2019	31	57	656	44	700	361	66	111	50
2020	2	56	562	38	600	346	54	98	20
2021	3	58	608	33	641	353	72	76	20
2022	4	60	698	31	639	355	80	77	42
2023	5	55	559	17	576	359	40	73	15
2024	6	50	492	36	528	359	58	122	12



登記者数一覧表

2024年度 日本学生自転車競技連盟 加盟校・登記選手数一覧										2025.03.31			
東日本（静岡・長野・新潟以東）							西日本						
CODE	都道府県	学校名	加盟	男子	女子	計	CODE	都道府県	学校名	加盟	男子	女子	計
1	北海道					0	18	福井					0
2	青森	八戸学院大学	1	2	4	6	20	石川	北陸大学	1	1		1
3	岩手					0	19	富山					0
4	宮城	東北学院大学	1	9		9	23	愛知	愛知大学	1	1		1
5	秋田					0			中京大学	1	15	1	16
6	山形					0			南山大学	1	1		1
7	福島					0	24	三重	皇學館大學	1	1		1
8	茨城	筑波大学	1	4		4			三重大学	1	5		5
9	栃木	作新学院大学	1	10		10	21	岐阜	朝日大学	1	32		32
10	群馬					0	25	滋賀					0
11	埼玉					0	26	京都	京都大学	1	6		6
12	千葉	順天堂大学	1	16	3	19			京都産業大学	1	13		13
13	東京	学習院大学	1	2		2			同志社大学	1	11	3	14
		慶應義塾大学	1	13		13			明治国際医療大学	1	10		10
		駒澤大学	1	6		6			立命館大学	1	9	1	10
		中央大学	1	16		16			龍谷大学	1	7		7
		東京大学	1	8		8	27	大阪	大阪大学	1	6		6
		東京科学大学	1	2		2			大阪経済大学	1	5		5
		東邦大学	1	2		2			大阪産業大学	1	17		17
		東洋大学	1	7		7			関西大学	1	12	1	13
		日本大学	1	50		50			近畿大学	1	5		5
		一橋大学	1	2		2			関西学院大学	1	1		1
		法政大学	1	26	4	30	28	兵庫					0
		明治大学	1	15	1	16	29	奈良					0
		明星大学	1	14		14	30	和歌山					0
		立教大学	1	8	1	9	31	鳥取					0
		早稲田大学	1	11	5	16	32	島根	島根大学	1		1	1
14	神奈川	東海大学	1	11		11	33	岡山	岡山大学	1	2		2
		日本体育大学	1	26	5	31	34	広島					0
16	山梨	山梨学院大学	1	2		2	35	山口					0
15	新潟	新潟大学	1	7		7	36	徳島	徳島大学	1	5		5
		新潟食料農業大学	1	31		31	37	香川					0
17	長野	信州大学	1	7		7	38	愛媛					0
		松本大学	1	2		2	39	高知					0
18	静岡					0	40	福岡					0
							41	佐賀					0
							42	長崎					0
							43	熊本					0
							44	大分					0
							45	宮崎					0
							46	鹿児島	鹿屋体育大学	1	18	6	24
							47	沖縄					0
東日本小計			27	309	23	332	西日本小計			23	183	13	196
全国合計										50	492	36	528
										校	男子	女子	合計

3

3 大会の参加者の推移

令和6年度（2024年度）は、計画されていた各種大会を順次開催し、前年度は一部大会の見合わせがあったことから、延べ参加者数は前年度比増加した。

令和6（2024）年度 日本学生自転車競技連盟 事業実施実績										男子	女子	合計		ローテーション区分	会場固定型当番校			2025.3.31	
月	日	曜日	大会名等 NAME OF THE EVENT										種別	当番校	副当番校	会場担当校1	会場担当校2	会場等	VENUE
			学連主催選手権大会等																
			全日本学生ロードレース・カップ・シリーズ																
			全日本学生トラックレース・シリーズ																
令和6（2024）年度																			
4	20	土	第24回JICF女子カップ（ロード）+ RGS#1 JICFオープンロード JICF WOMENS CUP ROAD							108	6	114	ロード	順天・日体	法政				静岡県伊豆市・日本CSCSKMサーキット
4	21	日	第25回JICF女子カップ（トラック） JICF WOMENS CUP TRACK							—	4	4	トラック	順天・日体	法政				静岡県伊豆市・日本CSC北400Mトラック
4	21	日	全日本学生TRS第1 戦							86		86	トラック	順天・日体	法政				静岡県伊豆市・日本CSC北400Mトラック
4	21	日	全日本学生RGS第2戦 けいはんなラウンド							61		61	ロード			立命館大学	京都	京都府・精華町	
5	4-5	土・日	第42回 西日本学生選手権トラック自転車競技大会 WEST JAPAN STUDENT TRACK							75	1	76	トラック	西日本					
5	4-5	土・日	第63回 東日本学生選手権トラック自転車競技大会 EAST JAPAN STUDENT TRACK							136	17	153	トラック	法政	明治	八戸学院			長野県松本市・美鈴湖自転車競技場
5	18-19	土・日	JICF INTERNATIONAL TRACK CUP &全日本学生選手権オムニアム大会 UCI CLASS-2 1 日目							32	22	54	トラック	東京	慶應義塾				千葉県千葉市・TIPSTAR DOME CHIBA
			JICF INTERNATIONAL TRACK CUP &全日本学生選手権オムニアム大会 UCI CLASS-2 2 日目							41	25	66							
5	26	日	第26回 全日本学生選手権クリテリウム大会 STUDENT CRITERIUM CHAMPIONSHIPS TOKYO							70	10	80	ロード	明治	早稲田				東京都・大井埠頭
5	28-6/2		世界大学選手権							4	1	5							コスタリカ
6	8	土	第62回 全日本学生選手権 チーム・ロード・タイムトライアル大会 UNIV.STUDENT TEAM TIME TRIAL							79		79	ロード	日本	中央・東学	作新学院			埼玉県加須市・羽生市・利根川河川敷
6	9	日	第9回全日本学生選手権個人ロードTT自転車競技大会 UNIV.STUDENT INDIV. T.T.							161	7	168	ロード	日本	中央・東学	作新学院			埼玉県加須市・羽生市・利根川河川敷
6	15-16	土・日	第39回 全日本学生選手権個人ロードレース大会 UNIV. STUDENT INDIV. ROAD RACE							115	19	134	ロード	中央・東学	順天堂・日体	京都産業			長野県木曽郡木祖村・奥木曽湖
6	22	土	全日本学生RGSオープン戦・草津ナイトレース							65		65	ロード			龍谷			滋賀県草津市・鳥丸半島周回コース
6	30	日	全日本学生TRS第2 戦							56	1	57	トラック	強化普及委員会					山梨県笛吹市・境川自転車競技場
7	6-7	土・日	第64回 全日本学生選手権トラック自転車競技大会 UNIV.SUTUDENT TRACK CHAMPIONSHIPS 1							135	28	163	トラック	立教・鹿屋	日本				千葉県千葉市・TIPSTAR DOME CHIBA
			第64回 全日本学生選手権トラック自転車競技大会 UNIV.SUTUDENT TRACK CHAMPIONSHIPS 2							116	19	135							
7	7	日	RGS東近江大会							66		66							東近江市・ふれあい運動公園内特設周回コース
7	27-28	土・日	全日本学生RGS第3 戦・第18回 白馬クリテリウムラウンド							163	2	165	ロード			明星			長野県白馬村・特設サーキット
		土・日	全日本学生TRS第3 戦							66	3	69	トラック	強化普及委員会					
8	23-25	金・土・日	文部科学大臣杯 第79回 全日本大学対抗選手権自転車競技大会 Intercollegiate championships トラック							183	31	214	TRACK	慶應	立教・鹿屋	順天			千葉県千葉市・TIPSTAR DOME CHIBA
9	1	日	文部科学大臣杯 第79回 全日本大学対抗選手権自転車競技大会 Intercollegiate championships ロード							139	23	162	ROAD	慶應	立教・鹿屋	信州			群馬県・群馬サイクルスポーツセンター
10	13	日	第59回 全日本学生自転車競技トラック新人戦・西日本大会							35	1	36	トラック	西日本					
10	13	日	第59回 全日本学生自転車競技トラック新人戦・東日本大会							61	3	64	トラック	早稲田	東京				山梨県笛吹市・境川自転車競技場
11	2	土	全日本学生RGS第4戦 大島 サンセット バムライン・個人ロードタイムトライアル・ラウンド							9		9	ロード	東京車連					東京都大島町
11	3	日	全日本学生RGS第5戦 大島 三原山 御神火スカイライン・ヒルクライム ラウンド							13		13	ロード	東京車連					東京都大島町
	10	日	東海道どまんか袋井 セフティライド 研修会							99	4	103	ロード	実行委員会		東海			静岡県袋井市・エコバ
12	1	日	全日本学生RGS第6戦 東京クリテリウム（GCT）ラウンド（お台場）							106	3	109							東京都江東区・特設周回コース
12	14	土	全日本学生TRS第3 戦（JBCF共催）							66	3	69							千葉県千葉市・TIPSTAR DOME CHIBA
12	15	日	全日本学生RGS第7戦・浮城のまち 行田クリテリウムラウンド							61	1	62	ロード	実行委員会		学習院・筑波			埼玉県行田市・運動公園前
2025 年																			
1	26	日	全日本学生RGS第8戦・埼玉川島町ラウンド							85		85	ロード	埼玉車連		作新学院			埼玉県川島町
2	11	日	全日本学生TRS第4 戦							53		53	トラック	強化普及委員会					千葉県千葉市・TIPSTAR DOME CHIBA
2	23	日	全日本学生RGS最終戦・第19回明治神宮外苑大学クリテリウム							143	10	153	ロード	明治	早稲田				東京都・明治神宮外苑
※日程表に記載された日程・開催場所等は予定・調整中であり、変更となる場合があります。																			
			凡例：RCS：ロードレースカップ・シリーズ、TRS：トラックレースシリーズ、																
										日本学生自転車競技連盟									

4 選手権大会の開催

「セーフティライド講習受講」「参加基準の条件」を満たす事や「エントリー期日・参加料の適正な納付」「事前代表者会議（Zoom）への参加」など義務付けを講じ、各種選手権大会を開催しました。

・全日本大学対抗選手権（インカレ）

千葉県千葉市チップスタードーム（屋内250m）で8月23～25日にトラック競技実施。ロードレースは当初、9月1日に長野県大町市美麻地区での開催を予定致しましたが、台風10号接近に伴う直近の予報が、実施によってもたらされる様々なリスクを予見せざるを得ない状況となり中止とし、9月16日に群馬県みなかみ町・群馬サイクルスポーツセンターにて競技を開催しました。トラック競技には男子136名と女子25名、ロード競技には男子139名と女子23名のエントリーが集まりました。関東地区近郊での大会開催で一定数の観客の中、男子はトラック総合成績最上位が日本大学、ロード総合成績最上位が日本大学、総合優勝・日本大学でした。女子はトラック総合成績最上位が早稲田大学、ロード総合成績最上位が早稲田大学、総合優勝・早稲田大学でした。「高木秀彰賞（インカレロードレースの男・女各々の優勝者のチームへ授与）」は、男子は 渡邊和貴選手＝順天堂大学、女子は 池田瑞紀選手＝早稲田大学 が受賞しました。

・全日本学生選手権個人ロードレース大会

6月15～16日に、長野県木曽郡木祖村での開催となりました。前年に続いて当地での開催となり、女子は 池田瑞紀選手/早稲田大学、男子は 林原聖真選手/明治大学 が優勝しました。

・全日本学生選手権トラック大会

千葉県千葉市チップスタードーム（屋内250m）で開催されました。インカレ実施会場での開催で、各校インカレを見据えた熱戦が繰り広げられました。男子、女子マディソンも開催され、今後さらなる学連選手のレベルアップが期待されました。

・全日本学生チームロードタイムトライアル大会

前年（2023）度は豪雨によるコースの冠水により、中止となりましたが、例年と同様、埼玉県加須市・羽生市の利根川河川敷にて開催致しました。中央大学チームが優勝しました。

・全日本学生個人ロードタイムトライアル大会

チームロードと同様のコースにて実施、女子は 渡部春雅選手/明治大学、男子は 伊藤 恭選手/中央大学 が優勝しました。

・全日本学生選手権クリテリウム大会

ツアーオブジャパンの最終日に 東京ステージの会場である大井埠頭にて開催されました。女子は 新沼 杏菜選手/順天堂大学、男子は 岡本勝哉選手/日本大学 が優勝しました。

・全日本学生選手権オムニウム大会

千葉県 チップスタードーム（屋内250m）で、J I C F 国際トラックカップと同場所併催にて開催されました。今後も オムニウム種目での学連選手の活躍が期待されます。

・東西学生選手権トラック大会

東日本学生選手権トラック大会は 長野県松本市 美鈴湖自転車競技場（屋外333m）で開催、西日本学生選手権トラック大会は 大阪府 岸和田競輪場にて開催を致しました。

5 強化・普及大会の開催

・全日本学生ロードレースカップ シリーズ

第1戦を4月中旬 J I C F オープンロードレース（修善寺 C S C 5 K サーキット）でスタートし、順次実施して参りました。前年度まで4月に実施していた「飯山ラウンド」を10月に計画、また予備のラウンドとして9月に「群馬 C S C」で計画しましたが、未実施となりました。一方、年初計画にありませんでしたが「お台場 G C T ラウンド」を12月1日に第6戦として実施しました。例年と同様、明治神宮外苑大学クリテリウムを最終戦として計8戦（計画は10戦）が開催されました。

・ロードカテゴリー制

ロード選手のカテゴリーを実力別にクラス1, 2, 3, に分類し、選手権大会の参加資格者が決まる制度も定着してきました。従来通りのロードカテゴリー制度の運用を実施して参りました。

・全日本学生トラックレース シリーズ

第1戦を4月中旬、修善寺 400 トラックでスタートし、順次計画、屋内施設で多くの経験（運営・競技）を積むべく、千葉県千葉市 千葉 J P F ドーム（屋内 2 5 0 m）で複数回開催、計4戦を実施致しました。2 5 0 m 施設での経験の機会を得る事が出来ました。

6. セーフティ・ライド研修実施実績

回	実施日	種別	内容	講師所属・出身校	講師氏名	受講者数
2024年度						
1	2024/4/8	リモート	競技規則と安全	学連	松倉信裕	172
2	2024/4/13	実地	ライディングスキルアップ・スクール@京都向日町競輪場	京都産業大学	山岸正教	23
3	2024/4/20	実地	ロードバイクの基本研修@日本CSC	日本大学	我妻敏	69
4	2024/4/20	実地	ロードバイク集団安全走行講習会@オムロンけいはんなイノベーションセンター駐車場	大阪産業大学	山下貴宏	21
5	2024/4/26	リモート	マディソン座学講習	明治大学	吉井功治	88
6	2024/4/29	実地	自転車(ロード・トラック)の安全講習研修会@八戸自転車競技場	八戸学院大学	三浦康高	8
7	2024/4/29	実地	自転車(ロード・トラック)の安全講習研修会@根占自転車競技場	鹿屋体育大学	山口大貴	18
8	2024/5/4	実地	大学生のための自転車学校2024 in 西武園		東京都自転車競技連盟	16
9	2024/5/5	実地	ライディングスキルアップ・スクール@京都向日町競輪場	京都産業大学	山岸正教	9
10	2024/6/3	リモート	アンチ・ドーピングについて		JCF・本田昭二	429
11	2024/6/9	実地	ライディングスキルアップ・スクール@京都向日町競輪場	京都産業大学	山岸正教	0
12	2024/6/24	リモート	アンチ・ドーピングについて		JCF・本田昭二	59
13	2024/6/28	リモート	マディソン座学講習	明治大学	吉井功治	13
14	2024/7/1	リモート	スポーツ現場でのEAP(緊急時対応計画)	日本体育大学	梶規子	68
15	2024/7/8	リモート	アンチ・ドーピングについて		JCF・本田昭二	25
16	2024/7/20	実地	ライディングスキルアップ・スクール@京都向日町競輪場	京都産業大学	山岸正教	3
17	2024/7/21	実地	自転車学校@西武園競輪場		東京都自転車競技連盟	29
18	2024/8/4	リモート	アンチ・ドーピングについて		JCF・本田昭二	15
19	2024/8/5	リモート	スポーツ現場でのEAP(緊急時対応計画)	日本体育大学	梶規子	45
20	2024/8/10	実地	ライディングスキルアップ・スクール@京都向日町競輪場	京都産業大学	山岸正教	3
21	2024/9/2	リモート	アンチ・ドーピングについて		JCF・本田昭二	2
22	2024/9/7	リモート	大会への安全な自動車移動について	中央大学	高島豪	15
23	2024/9/15	実地	ライディングスキルアップ・スクール@京都向日町競輪場	京都産業大学	山岸正教	0
24	2024/11/10	実地	サイクリスト・自転車競技者のための自転車学校@袋井 午前		平塚義光ほか	100
25	2024/11/10	実地	サイクリスト・自転車競技者のための自転車学校@袋井 午後		平塚義光ほか	101
26	2024/12/2	リモート	トラック競技のルール変更と安全	学連	松倉信裕・森川和之	125
27	2024/12/14	実地	ロードバイク集団走行安全講習会@森林公園	エカース	浅田顕	36
28	2025/1/12	実地	ライディングスキルアップ・スクール@京都向日町競輪場	京都産業大学	山岸正教	4
29	2025/1/13	実地	サイクルスクール@向ヶ丘自動車学校			9
30	2025/1/18	リモート	集団走行安全講習（座学講習会）	エカース	浅田顕	28
31	2025/1/19	実地	集団走行安全講習会@森林公園 1部	エカース	浅田顕	28
32	2025/1/19	実地	集団走行安全講習会@森林公園 2部	エカース	浅田顕	28
33	2025/1/21	リモート	過去の事故事例から考える公道練習における安全対策	筑波大学	児玉岳史	44
34	2025/2/2	実地	ライディングスキルアップ・スクール@京都向日町競輪場	京都産業大学	山岸正教	7
35	2025/2/22	リモート	大学自転車競技フォーラム	学連		35
36	2025/3/2	実地	ライディングスキルアップ・スクール@京都向日町競輪場	京都産業大学	山岸正教	10
37	2025/3/2	実地	TCF子供のための自転車学校2024 in 西武園競輪場		東京都自転車競技連盟	7
38	2025/3/20	実地	実地研修@鴨川青年の家	筑波大学	児玉岳史	35
39	2025/3/23		座学講習会	明治大学	西沢優義ほか	60
40	2025/3/23	実地	実地研修@明治大学八幡山グラウンド	明治大学	西沢優義ほか	52

7 2024年度中の落車の実態と分析（安全・医事委員会 より）

令和4年度（2022年度）のインカレロードにおける落車事故後に再開した大会以降、各大会に配置したセーフティ・マネージャーから提出された落車報告書にもとづき、令和6年度（2024年度）1年間に発生した落車について、次のとおり報告します。（詳細は別添資料のとおり。）

落車の状況は千差万別であり原因も複雑に絡み合うため、落車データだけを以て確実に落車を防止する手段に行き着くものではありませんが、落車の実態を知り、分析・考察することは安全なレースを行ううえでは重要なことであると考えています。

（1）落車総人数について

落車総人数は昨年の100から89に減少した。大会および参加選手数が同一ではないため、落車総人数の増減の評価はできないものの、絶対数が減少したことは事実である。この傾向が来年度以降も継続するように期待したい。

（2）落車原因別の人数について

ロードはスリップ落車、トラックは巻き添えが原因のトップを占める。昨年はロードのトップが巻き添え、トラックは滑落だった傾向が変化している。巻き添えの落車は避けられたかもしれない落車とも言える。しかも落車の原因を作った者は落車しないケースが多いと考えられる。巻き添えの落車が多いということは荒い走りをする選手が多いのではないかと仮説も成り立つ。レースは他者の安全に配慮して競技しなければ皆が不幸になると改めて銘記すべきである。一方では落車に巻き込まれない位置取りや集中力（注意力）、走行の技量も落車を回避するためには求められることも改めて記したい。

ハス、他者接触の落車は自らの不注意によるものと、他者の蛇行等により不可抗力的にハスに至ったものの両方がある。自身の走行ラインを守ってまっすぐ走ることが落車の防止には効果がある。トラックではマディソン競技中の交代時にバランスを崩しての落車が多い。マディソン競技に出場する選手は事前に出場ペアで十分な練習を積み、大会に臨むことが望まれる。

（3）大学別落車人数について

レースへの大学別参加者数は多様であるため、また落車の直接原因が巻き添えによる落車かの区分がないため、大学別の落車数が持つ意味は限定的かもしれないが、事実は表のとおり。登録選手数が最も多い日本大学の落車数が少ないことには注目すべきである。日本大学の選手の走り方を参考にすることは学連全体の安全性向上に資すると思われる。

（4）学年別落車人数について

レースへの学年別参加者数が不明であるため、また落車の直接原因が巻き添えによる落車かの区分がないため、学年別の落車数に意味があるかどうかは判断できないが、事実は表のとおり。

自身の過失で落車した者、巻き添えで落車した者はこのように記録に残りますが、後続の落車を誘発したにも関わらず自身は落車はせずレースを続けた者の記録は当然ながらありません。選手には落車を誘発するような走りをしないよう、させないよう指導していくことが重要だと、本年も分析しながら考えるに至りました。

かつてセーフティ・ライド研修会の座学講習で講師を務めた木下智裕氏の言葉を今年も引用したいと思います。「ヨーロッパではロードレースほど安全で楽しいスポーツはない。それは各選手が他の選手をリスペクトして紳士的な走りをするからです。」

8 国際大会の開催・参加

2016年から長野県松本市で開催している「JICF国際トラックカップ」は、前年度に続き「千葉・チップスタードーム」にて実施しました。寛仁親王メモリアルを拝し「三笠宮彬子女王殿下」ご臨席の中での開催を致しました。海外選手の参加数の確保やスケジュールの調整（ジャパントラックカップの日程）が課題ではありますが、引き続きの継続開催が期待されるところであります。

本年度は「世界大学選手権」が開催され、5月28日～6月2日、南米コスタリカへ、5名の選手を派遣し、海外の大学生との競技経験をする事が出来ました。

9 会議・事業運営

本連盟事務局は、2020 年度に ジャパン・スポーツ・オリンピックスクエア（千駄ヶ谷）へ移転となりましたが、事務所にて大会・事業の物理的な準備を継続しながら、定例の会合（毎水曜日）を「常務理事会」と併せてリモートで行い、準備・運営・意思統一が円滑に図れる様、事業運営を行いました。

理事会・評議員会といった「基幹会議」も、リモート会議を利用しながら、意思決定・承認が出来る様、可能な限り効率的な運営を実施して参りました。

10 むすび

令和6年度（2024年度）は、前年度同様、安全な大会を実施するため「医療・安全」に特化した組織作りと、各種講習会などを通じ関係者すべての意識の向上を重点課題として運営を実施して参りました。本連盟所属の若い命を失ってしまった事の悲しみを忘れる事無く、今後も引き続き安全な事業運営を前提として、各大会開催や 選手の強化育成、自転車競技の普及発展などへ一層の努力が望まれるところであります。

日本学生自転車競技連盟2024年度 最優秀選手（トラック／ロード ランキング年間最上位者）

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| ○男子トラック：井出晃太郎（中央大学） | ○女子トラック：中西 美央（鹿屋体育大学） |
| ○男子ロード：渡邊 和貴（順天堂大学） | ○女子ロード：渡部 春雅（明治大学） |

全日本学生ロードレースカップシリーズ 総合優勝：

神村 泰輝（早稲田大学）

令和7年6月28日 第1回評議員会資料（予定）

日本学生自転車競技連盟

Japan Intercollegiate Cycling Federation

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2

ジャパンスポーツオリンピックスクエア408

ホームページ：https://jicf.info

電子メール：jicf@remus.dti.ne.jp